

令和元年度「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業（研究協議会）」

第1回 検討委員会1 議事録

1 日時 2019年8月1日（木）13：30～15：30

13：30～13：55 全体会

13：55～15：30 検討会1

2 場所 日本女子会館ビル 5階 小会議室
東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館ビル5階

3 出席者

【検討会1】「大学が中心となった女性の学びとキャリア形成支援」

井出 あゆみ 特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事
特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会理事長
黒澤 あずさ 特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事
公益財団法人日本女性学習財団学習事業課長
白井 文 ブラザー工業株式会社社外取締役
一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団業務執行理事
杉浦 浩美 埼玉学園大学准教授
中野 洋恵 独立行政法人国立女性教育会館研究客員研究員
納米 恵美子 特定非営利活動法人全国女性会館協議会代表理事
公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会理事

【検討会2】「困難な状況にある女性のための学び直しを通してキャリア支援」

小園 弥生 男女共同参画センター横浜南館長
桜井 陽子 特定非営利活動法人全国女性会館協議会顧問
世田谷区男女共同参画センター館長
柴田 美代子 特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事
東京ウィメンズプラザ事業推進担当主任専門員
竹原 正篤 法政大学特任准教授、特定非営利活動法人全国女性会館協議会理事
谷口 年江 特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事
特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか理事
山屋 理恵 特定非営利活動法人全国女性会館協議会理事
特定非営利活動法人インクルいわて理事長

【検討会2・ゲストスピーカー】

阿部 若奈 公益財団法人せんだい男女共同参画財団

【統括責任者および事務局】

納米 恵美子 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会理事
特定非営利活動法人全国女性会館協議会代表理事
坂田 静香 特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事・事務局長
特定非営利活動法人男女共同参画おおた理事長
花岡ナオミ 特定非営利活動法人全国女性会館協議会事務局員

4 全体会

(1) 委員自己紹介

(2) 事業趣旨およびスケジュール説明（納米）

女性の労働力化、雇用の流動化、「人生 100 年時代」におけるキャリアのあり方が模索される中で学び直しが必要であるという認識のもと、政府は各種の施策を行おうとしているのではないかと理解している。内閣府においては、2019 年度の男女共同参画のキャッチフレーズは「男女共同参『学』」であり、2019 年 3 月に「多様な選択を可能にする学びに関する調査報告書」を作成・発表している。

今回の文科省の事業は女性のキャリア形成と男女共同参画の学びを一体的に行うものでその効果等を調査および研究・報告する内容。協議会は後者の研究・報告の枠組みで採択された。以下文科省に提出をした申請書をもとに概要説明。

5 検討会 1

(1) スケジュールについて

8 月～1 月までに 4 回の検討会を実施、視察先でヒアリングを実施

2 月に研究協議会として検討会 1、検討会 2 の研究成果を発表

(2) 大学を中心としたプログラムについての意見交換

- ・内閣府委託調査「多様な選択を可能にする学びに関する調査」報告書ではリカレント教育を実施している関西学院大学、京都女子大、福岡女子大、山梨大学にヒアリングを実施
- ・過去 4 年の職業実践力育成プログラム (BP) を実施している大学のプログラムなどから、3 つの特徴が浮かび上がるのではないかと
①女性のリーダーシップ養成型、②主婦の再就職支援型、③特定の資格取得・専門職型
- ・大学在學生と地域社会の連携が課題ではないか
- ・企業が求めている人材と大学が提供しているプログラム内容にギャップがあるのではないかと
例 1) 営業職を望んでいる企業と事務職を望んでいる卒業生
例 2) キャリアの棚おろしをしっかりと行わずしてマナー等を学んでいる
- ・リカレントプログラムの中でジェンダー視点が薄い。男性型リーダーシップ養成教育ではないプログラムが必要
- ・ジェンダー視点を言語化するプログラムを行うことで GGGI の低さや SDGs ゴール 5 について学ぶことができる。企業に向けて CSV (共有価値の創造) の発想でプログラム展開するというメッセージを出すことが必要
- ・ジェンダー視点は女性センターが専門としている分野であるが、大学と女性センターが連携をしてプログラム化している好事例はあるのか
⇒会員館に大学との連携取組みについて聞いてはどうか
- ・大学が再就職支援に取り組むことを女性センターはどう考えるのか。
コラボ先が増える？ or 競合が増える？
- ・女性センターの得意分野、専門性、役割を前面に出す必要がある。
- ・再就職支援に起業も視野に入れる。

【今後、検討が必要な事項】

- ①主婦の再就職支援型を中心に調査を行う（候補：富山大学、明治大学）資料収集しヒアリング先を決定する
- ②女性のキャリア支援におけるジェンダー視点とは何かを言語化する
- ③大学が行っているプログラムについてジェンダー視点から検討する
- ④女性センターと大学のすみわけを計る（例：入口は女性センターで専門性は大学）
- ⑤専門性を身に着けた後の出口については課題
- ⑥人生 100 年時代、陳腐化した知識を学び直したいという参加者への対応

(3) 第 2 回検討会について

【ゲストスピーカー（予定）】

大内章子（関西学院大学経営戦略研究科教授）女性リーダー育成&再就職

野依智子（福岡女子大学国際文理学部教授）女性リーダー養成

それぞれプログラム内容とあわせて女性センターとの連携状況やその可能性をレクチャー

日程：2019 年 10 月 4 日（金）時間はゲストスピーカーの都合にあわせる

(4) 研究協議会の基調講演者について

当初予定していた新井紀子氏は現在講演活動をしていないためお断りされた。

次の候補の検討

上西充子：「呪いの言葉の解き方」著者、法政大学キャリアデザイン学部教授、労働問題が専門

国谷裕子：ニュースキャスター

鳥飼玖美子：通訳者、「子どもの英語にどう向き合うか」著者

以 上